

<資料15> 令和5年度 AIE国際高等学校 学校評価総括表

教育目標	高い問題意識と感性を有する若者を受けとめ、自国の文化・歴史に誇りを持ち、広く世界に関心の目を向けて社会の問題に気づき、それを解決しようと努力する熱意と能力を持つ使命感溢れる国際人を育成する。(学則第1条)	
目指す学校像	豊かな感性をもった若者が新しい自分を発見し、広く世界に貢献しようとする意欲と能力を開花させる学校。	
Learner Profile (目指す生徒像)		
Knowledgeable－知性－	広くバランスのとれた学問領域について理解と知識を深めようとする人	
Harmonious－協調性－	自分の意見を持ちながら、他者の意見も尊重し、協力し合いながら効果的にものごとに取り組める人	
Risk-Taker－挑戦－	困難や、不確実性に勇気をもって臨むことができる人、自分の信念を恐れずに明言し実践できる人	
Balanced－バランス－	体と心のバランスを重視し、肉体も人格の一部として大切にすること	
Sensible－感性－	目に見えないものを感じ、それに価値をおき、理解することよりも、信じることに重きをおける人	
Resilient－再起力－	困難な状況の中でも、何らかの前向きな意味を見出す気質を持っている人	
Caring & Humble－他者配慮－	思いやりと謙虚さを持った人、他者の気持ちに共感し、慈悲の心を持つ人	
基本方針		
①学び合う	教える者は学ぶ者。学ぶ者は教える者。この精神のもと、生徒と先生と一緒に校風を創ります。先生は師であるとともに、同じく人間として成長しようとする友です。	
②コミュニケーション能力を育てる	コミュニケーションとは、“人と関わること”。相手の気持ち、メッセージを正しく受けとめ、また、自分の思いを分かりやすく表現し、対話を深めていく力を育てます。そのために、母国語を基盤とする“言葉の力”を大切にします。	
③多面的にチャレンジする	色々な自分を発見するために、様々な分野にチャレンジします。スポーツ・音楽・絵画・ガーデニング・茶道・演劇・討論etc. 多彩な活動、イベントを通して新しい自分に出会います。	
④国際的志向を高める	グローバルな時代にあって、広く世界に関心の目を向け、“国際社会の一員になろうとする気持ち”を育てます。母国語をしっかりと理解しながら、異なる国との関わりを学ぶ能力を高めるのが目標です。	
⑤悩む力・考える力・乗り越える力	“悩むべきことに悩む”のは能力です。その感性を大切にしながら、その問題から逃げずに考え続ける力、そして、それを乗り越えていく力を育てます。問題に気づき、解決していく、強くて柔軟な心の姿勢を育てます。	
⑥基礎から始める	嵐が来ても根がしっかりとした木は倒れません。何事においても、しっかりした基盤があってはじめて応用力を発揮することができます。特に学習面においては、基礎からていねいに学ぶことを大切にします。	
前年度の課題と評価	「Learner Profile」として育む力が明確に示され、各活動がその理念を基に展開されている。創立から10年間教育理念を実践した実績をもとに新学生寮を開設し、生徒たちの学校生活の質向上へ寄与した。 夏期短期留学(米国セントマーチンズ大学)もあり、生徒全体の国際性が一層育まれている。国際交流が活発になっていくことに期待している。保護者有志の会「Familyの会」活動が保護者に浸透し、「自分たちの学校」という意識が強まっていることが喜ばしい。 思考を深める教育活動が積極的に行われている。オンラインの普及に伴い、ハイブリッド型クラスの実施、遠方の保護者とのオンライン面談、登校しづらい生徒とのコミュニケーションが充実されたことは成果であり、通信制高校ならではの特徴が強化された。	少人数クラス編成で、生徒個々に応じて適切な目標設定を行い、それに対するサポートに丁寧に取り組んでいると感じる。ホームページやSNS、紙面での活動報告を通して、学校の様子がよくわかる。様々な事情のある生徒に配慮のできる学校としての魅力もあわせて発信していったほしい。 マニュアルを基にした新型コロナウィルスへの対策や災害を想定しての避難訓練などを実施し、安全で安心できる学校としてできる限りの対応がなされている。 コロナ禍で減った、和太鼓部の発表機会の増加、生徒にとって今まで以上の学校生活の自主的な運営を期待する。また、コロナが収束し、生徒も本来の活動ができてきている反面、心理的な影響が出て来る可能性があるため、メンタル面でのサポートを考慮してほしい。

重点項目・目標	評価項目	学校自己評価(令和6年6月22日実施)			学校関係者評価 (令和6年6月29日実施) 評価(結果・分析)及び意見等
		項目別	総合		
教育理念	理念の浸透	A	A	学期開始時のオリエンテーションでは、通学生全員で本校の目指す学習者像「Learner Profile」について確認の時間を設けた。また、学校行事・部活動などの課外活動では、「Learner Profile」の実践を意識して生徒は目標を立て、振り返りをするようにして浸透を図っている。特に2023年は、校歌を作成し、そのプロセスにおいて、生徒やOBに「校歌に入れたい本校のイメージ、言葉」のアンケートを実施し、全校的に学校の創り手としての意識喚起の機会を設け、100名を超える参加者が回答した。加えて、生徒の成長モデルである『AIE Style』を見直し、現在の状況に合わせて改善した。 「Learner Profile」を基に高校行事を実施した。例えば、英語劇発表会や球技大会では、イベント前に、その機会を通して特に伸ばしたい資質を決め、イベント後にはその振り返りを行った。また、1月にボランティアクラブを設立し、生徒たちが社会課題に対して主体的に考え、行動できる場をつくった。「クラブ憲章」やロゴマークは生徒たちが考え、決めたことで、「学校の創り手」となる機会を設けた。国際的志向を高める機会をつくった。今年は、英語演劇「English Theater」の機会に合わせて、AIEの教育活動に関わってきたプロの演劇関係者をアメリカから招き、約10日間の集中指導と、オンラインによる事前指導を受けた。生徒たちはアメリカ人指導者から直接かつ集中的な指導を受けることで、日米の文化の違いを体感し、英語でのコミュニケーション意識を高める機会を得た。加えて、今年も夏期体験留学を、米国・ワシントン州の提携校・セントマーチンズ大学で実施した。大学での語学の授業やトリップ、ホームステイなど、生徒にとって異文化体験の大きな機会となった。 保護者有志による「Familyの会」が定期的に実施するガーデニングの機会では、保護者のみならずOBや在校生の交流の場となった。年度開始時には、先輩の保護者から「Familyの会」のコンセプトや活動を紹介する案内冊子が作成され、広く活動が周知された。他校との交流では、国際バカロレア校のコミュニティにおいて、年に複数回行われるIBワークショップやコーディネーターのネットワークミーティングにも積極的に参加した。また、国際バカロレア(IB)の授業のプロジェクトのためIB生が仙台育英高等学校を訪れたり、CAS活動の一環として生徒らがディベート部を立ち上げ、大安寺高等学校の部活動の見学に参加するなど、交流の機会を設けた。	開校10周年の記念すべき事が多数盛り込まれた1年だった。学校のさらなる飛躍を期待する。 「あなたが創る・あなたを創る」という教育理念が様々な取組の中で具現化されている。特に「主体的に学び、考え、行動できる生徒の育成」の実践により生徒が学校を創り、担い手となる校風ができてきた。具体例としては以下の点。 1. アンケートを実施して、生徒やOBの思いや考えを生かされた校歌が作成されている。 2. IB生の仙台育英高等学校との交流、ディベート部生徒の大安寺高等学校の部活動見学など、新たな交流の機会が設けられている。 3. プロのアメリカ人演劇関係者の指導受けての本格的な英語演劇「English Theater」が行われたことや、夏期体験留学(米国シアトル)による異文化体験など、国際性の育成が行われている。 4. ボランティアクラブの設立、生徒たちの発案による「クラブ憲章」やロゴマークの作成、生徒の自主的なディベートクラブの立上げなど、社会課題に対して主体的に行動できる場がつけられている。 PTA活動の是非が全国的に問われる中、Familyの会の趣旨に賛同して下さる保護者有志によって活動される形は素晴らしい。ガーデニング活動では保護者に加えて生徒やOBが積極的に参加し、一緒に楽しめる居場所作りとして、多世代交流の機会になることを目指したい。 より活発に有意義な活動を継続して行くためにホームページやSNS Classiなどを使い、卒業生保護者や途中転入された保護者など幅広い層に周知することが不可欠。引き続き学校側に協力をお願いしたい。
	理念の実践	A			
	国際性の涵養	A			
	学校コミュニティの発展	A			

教育活動	カリキュラムの充実	A	A	定期的に内外で生徒の実力を測る試験を増やし、寮生・通学生の学力をより客観的に把握することを試みた。その結果を活用し、各生徒が目標を達成するための指導を行った。また、大学入試の変化に対応するため、英検などの資格試験対策や小論文対策を一部の通学クラスで導入し、実施した。加えて、教養を深める機会を提供した。具体例としては、秋の淡路島トリップに合わせて関連リサーチ授業を実施。日本の古典を専門とする国語教員の指導のもと、生徒たちは事前学習で日本の神話や歴史を学び、伊弉諾神宮を訪れて能動的に学ぶことができるようにした。	自ら考え思考を深める教育活動に積極的に取り組んでいる。多方向の視点による働きかけがあり、生徒たちの学習意欲向上及び視野の拡大に繋がっている。
	課外活動の充実	A		学校行事では、校歌お披露目式や英語演劇の機会において、外部からプロの音楽家、演劇関係者を招くことで、生徒たちが人物との出会いから刺激を受ける機会をつくった。加えて、大塚国際美術館トリップや淡路島トリップなど地域性を活かした行事の充実にも努めた。部活動では、スポーツアクティビティ、ボランティアクラブなど新しい部活を立ち上げ、生徒たちが課外で学べる機会を拡充した。年度途中から生徒指導に関わる職員を増員した。生徒指導においては、学期開始時に、適切な目標設定をするためのワークシートを配布し、達成に向けて計画的に日々過ごす習慣を身につけることを目指した。必要に応じて個別面談を実施し、生徒が自身の課題発見と解決ができるように指導した。加えて、オンライン学習プログラムを実施し、学習習慣をつけることを希望する生徒へのサポートの充実を試みた。	コロナ渦でしばらく見送られていた活動が再開されさらに充実したものになっていることを喜ばしく思う。海外から指導者を招いて行われた英語劇に感動した。海外の留学生との交流などの発展に期待する。サッカー部の活躍により、学校全体が一丸となる機会に恵まれたことを感じる。サッカー部の今後の活躍に期待している。所属コースに関わらず、課外活動に参加できる機会が増えることを引き続き希望する。
	個別サポートの充実	A		進路指導においては、3年生は各生徒の進路希望状況を確認し、通学生は随時個別面談を行った。また、1～2年生にも定期的な進路ガイダンスと個別面談等を実施するなど、進路について考える機会を増やした。具体的には、大学教授による模擬授業を通じて生徒たちは大学の授業体験をし、また、海外大学や留学機関からの担当者を招いて留学ガイダンスを行い、海外進学に関する情報に触れ、生徒が海外進学を考えるきっかけを提供した。	丁寧な個別サポートには、卒業生の親として非常に感謝している。近年、自ら通信制を選択する生徒が多様化しており、指導は大変難しいと思うが、今まで以上に個別の丁寧なサポートに取り組んでいただけたようお願いしたい。
	カウンセリングの充実	A		電話、メール、Classiを使い、保護者と密に連絡を取り合うことを心がけた。また、学期末面談をオンラインで行うことにより、遠方の保護者も参加しやすくなり、面談対象者のほぼ全員に学期末面談を実施した。また、それ以外でも必要に応じて各生徒・保護者との面談の機会を持った。	定期的に内外で生徒の実力を測る試験が多く行われていること、大学入試の変化に対応した英検などの資格試験対策や小論文対策の導入が行われていること、さらには個別支援のカounselingの充実など、決めの細かい進路指導がなされている。また、大学教授による模擬授業や海外大学や留学機関からの担当者を招いた留学ガイダンスなどは、特色ある取組であり、生徒の将来に向けた進路選択に有益であると思われる。
	進路指導の充実	A			オンラインで行われている学期末面談は、遠方の保護者にとっては有難い取組である。面談対象者のほぼ全員に学期末面談が実施できたことは評価できる。
	保護者との連携	A			

学校としての体制の確立	適切な教育課程の編成	A	A	教育課程は、内閣府に認定された特区計画申請書および、文科省に確認された教育課程表に従って適正に編成している。なお、2022年度入学者より、新学習指導要領の施行にともない、本校でも新課程で各教科を実施。2023年度は1、2年は新課程、3年は旧課程のカリキュラムで、1年間25単位を履修している。 面接指導・添削指導等は、学習指導要領及び学校教育法、その他関連法、高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドラインに則って実施した。 適切な教職員の配置と組織運営については、少人数クラスを維持して教育の質を高めるように努めた。常勤職員を1名増員、添削指導のために非常勤の教員を増員し、在籍生徒数の増加に対応した。 危機管理については、文部科学省によるガイドラインに沿って当校の危機管理マニュアルを随時更新している。設備点検も定期的実施している。新学生寮ができたことに伴い、寮運営に関する危機管理マニュアルの見直しと更新を行った。 情報提供は、ホームページやSNS、紙面での活動報告を行っている。在校生、保護者へはClassiを活用し、より円滑に情報を提供。また、電話、メール、Classiで情報交換を密に行い、保護者から意見を取り入れ、学校全体の活動に反映させた。 地元との連携については、コロナ明けとなる2023年4月より再開。校内行事としては、淡路島トリップとして伊弉諾神宮、北淡震災記念公園を訪れた。伊弉諾神宮では、関係者から直接話を聞くことにより、日本の歴史について考える機会となった。また、校外では、和太鼓部員が地元のお祭りでの演奏を披露した。加えて、NPO法人「うず潮を世界遺産にする淡路島民の会」が主催する「3海峡クリーンアップ大作戦」に生徒有志が参加し、清掃活動を行った。また、サッカー部員は、阪神大震災追悼行事やウォーキングイベントなどの淡路市内での行事にも参加した。 法令に適合した敷地面積、教室等が確保され、必要な点検等も適切に行った。	教育課程は適正に編成されている。数年前よりもさらにクラスが細分化され、少人数クラスは生徒にとって落ち着いて勉強ができる環境であり大変ありがたい。一方で教員、スタッフへの負担の増加を心配している。 加えて、サッカー部の生徒の増加で教職員配置が大変だったと拝察されるが、きめの細かい教育活動のためにも適正な人員配置を引き続きお願いしたい。（多様な背景の生徒へのきめ細やかな配慮のできる通信制高校としての魅力も合わせて発信してほしい。） IBDPコースの充実やサッカー部の活躍は、目を見張るものがある。他の生徒との関りの中でいい効果が生まれる事を期待する。同時に、生徒たちが二極分化しないか心配している。各々が取り組んでいることを認め合える校風をこれからも育んでほしい。 社会への学校のPRや、教員及びスタッフの増員、地元地域との交流、保護者との密な連絡、などへの綿密な取り組みにより、学内外での生徒たちの安全確保や、より充実した学生生活に繋がられている。 ホームページやSNS、紙面等を通じて、保護者や地域に情報発信がよくなされている。 淡路島トリップの活動や地域の清掃活動、地元のお祭りへの和太鼓の参加、また、サッカー部員による阪神大震災追悼行事やウォーキングイベント行事への参加など、地元との交流が再開され、幅広く活動されている。生徒の地域でのボランティア活動も、広がっている様子でいい学びと経験が来ている事は素晴らしい。 学生寮での共同生活はAIE高等学校の特色の1つである。寮運営に関する危機管理マニュアルの見直しと更新が行なわれたことは評価できる。また、暴風雨や地震・津波など、自然災害の発生する頻度が年々高くなってきており、引き続き一層の危機管理をお願いしたい。
	適切な面接指導・添削指導等	A			
	適切な教職員の配置と組織運営	A			
	危機管理について	A			
	学校評価の実施	A			
	適切な情報提供と意見等の取り入れ	A			
	地域との連携	A			
	適切な施設及び設備の整備	A			